

レビュー（安心・快適な給水の確保）

【主要施策3】給水管・給水用具の信頼性の向上

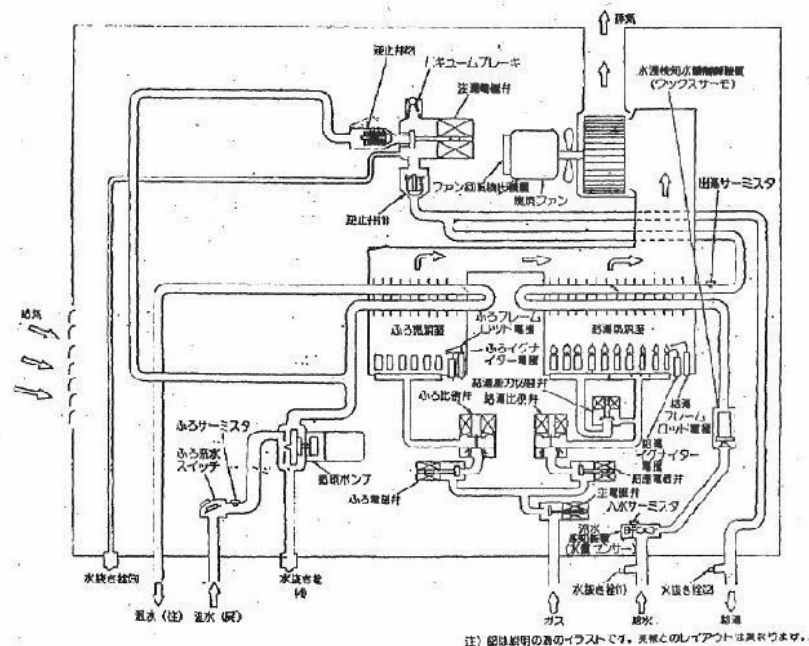
【施策目標】給水管・給水用具事故数ゼロ

○給水用具が衛生上の問題を起こした事故実例

自動湯張り型強制循環式風呂釜における逆流事故の発生

（事故の状況）

- ① 築7年のマンションにおいて、停電時に受水槽からの揚水ポンプが停止し、立管内が負圧になった。
- ② このため、6階住居者の浴槽から残り湯（入浴剤使用）が逆流し、立管内まで到達した。（①風呂釜内蔵の逆止弁及びバキュームブレーカー、②風呂釜直前に別途設置された逆流防止装置付黄銅ボール弁、③水道メーター下流に別途設置された単式逆止弁は全て機能せず）
- ③ 立管内に残り湯が充満している状況の時に、停電が復旧しポンプは使える状態になったが、8階の住人が最初に蛇口を開けたため、8階の部屋から6階の浴槽の残り湯（入浴剤入りと思われる黄色い水）が流出したもの



注）図は説明のためのイラストです。実機とのレイアウトは異なります。

レビュー（安心・快適な給水の確保）

【主要施策3】給水管・給水用具の信頼性の向上

【今後の課題】給水管・給水用具の信頼性の向上についての検討

状況

・給水用具に係る逆流防止装置の不備などによる逆流事故や水道法で禁止されている水道以外の管及び設備と連結されたクロスコネクションに関する事故事例などが報告されている。

目標：健康に重大な影響を与える恐れのある事故（汚染された水の逆流、クロスコネクション）について事故ゼロを目指す

今後の対応は？

- ・逆流防止措置に関する調査・検討結果を周知。引き続き調査、検討を行う。
- ・クロスコネクション防止に向け危険性の高い施設を重点に啓発を図る。
- ・経年劣化に係る問題について、設置者・使用者の責任を周知（責任範囲、維持管理の必要性を周知）

レビュー（安心・快適な給水の確保）

【主要施策3】給水管・給水用具の信頼性の向上

【施策目標】鉛給水管総延長ゼロ

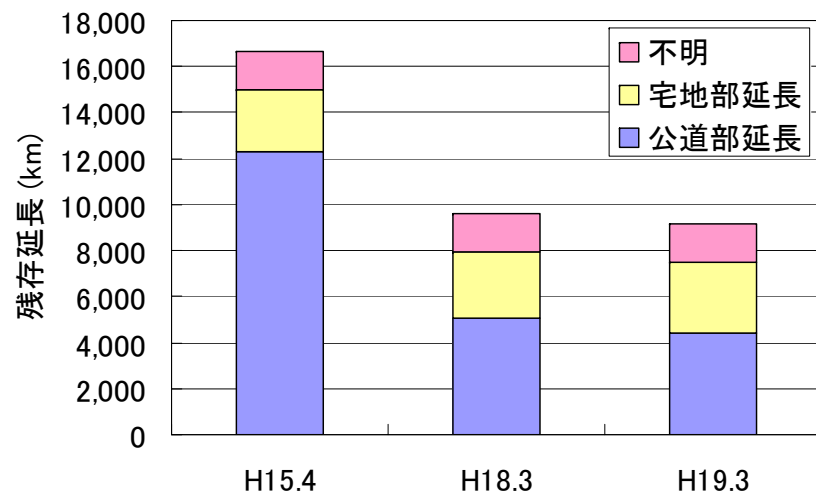
○鉛製給水管の残存状況

■ 鉛製給水管が残存する事業体（H19年3月末）

回 答	事業体数	割合（%）
残存している	612	41%
布設替完了	220	15%
使用したことがない	600	40%
その他（不明含む）	71	5%
計	1503	

■ 残存状況の変化（H15年との比較）

項 目	残 存 状 況
使用戸数（H15.4）	6,291,566（戸）
使用戸数（H19.3）	5,211,352（戸）
残存延長（H15.4）	16,677（km）
残存延長（H19.3）	9,129（km）



注) H15データは調査項目が異なっていたため、公道からメータまでを公道部、メータ周りからメータ以降を宅地部として集計しなおしている。

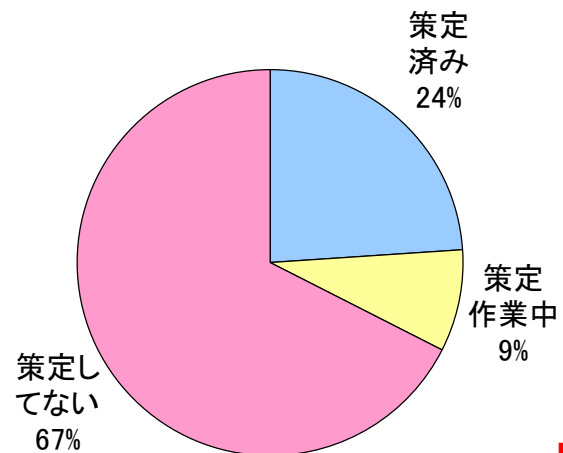
レビュー（安心・快適な給水の確保）

【主要施策3】給水管・給水用具の信頼性の向上

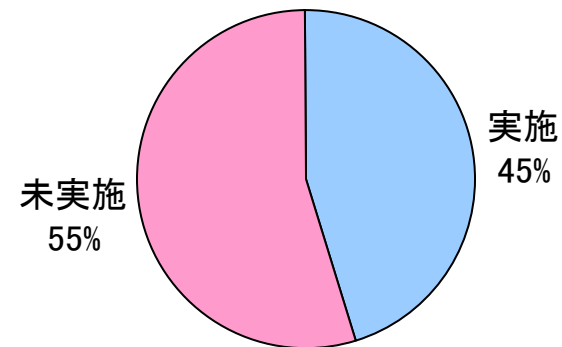
【施策目標】鉛給水管総延長ゼロ

○鉛製給水管に対する対策の状況

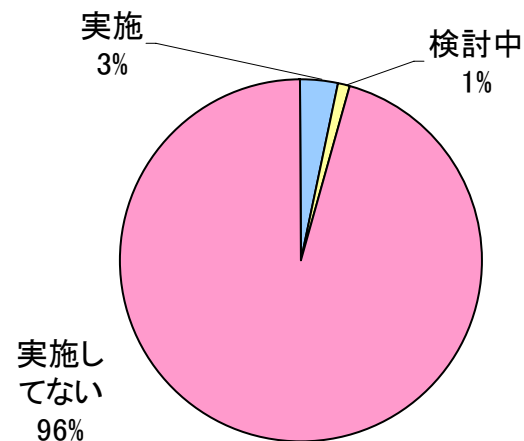
■ 布設替え計画の有無



■ 広報活動の実施状況



■ 鉛製給水管布設替えに対する助成制度の有無



レビュー（安心・快適な給水の確保）

【主要施策3】給水管・給水用具の信頼性の向上

【今後の課題】給水管・給水用具の信頼性の向上についての検討

状況

全体としては鉛製給水管の布設替えは進んでいる。公道部に設置されている鉛製給水管は減少しているが、減少傾向鈍化が見られる。一方、宅地部の鉛製給水管の布設替えは進んでいない。

目標： 総合的な布設替え事業を推進

今後の対応は？

- ・鉛製給水管の布設替えを促進するためには、布設替え計画の策定、財政制度の活用、組織体制の整備、積極的な広報活動の実施などにより、総合的な布設替え事業を推進していく必要がある。
- ・水道事業者が比較的関与しやすい公道部については、着実な布設替えが実施されるよう取り組むことが求められるのではないかな。

レビュー（安心・快適な給水の確保）

【主要施策3】給水管・給水用具の信頼性の向上

【今後の課題】給水管・給水用具の信頼性の向上についての検討

状況

- ・指定給水装置工事事業者制度は施行後10年が経過し、当初法改正の目的であった規制緩和の効果や施行状況について評価する必要がある。
- ・検討会においては、**規制緩和の成果は現れている**と評価。一方、工事事業者が増加したことにより事業者の把握が困難になっていること、工事事業者の技術力の維持・向上を図ること、水道利用者が工事事業者について十分な情報を得られる状況でないこと などが**課題として明らかとなった**。

目標： 問題・課題に対して解決を図り、適切な給水装置工事の施行を確保

今後の対応は？

- ・指定給水装置工事事業者制度に関する検討会により整理された課題、及び解決に向けた方策について、審議会水道部会で審議。
- ・各関係者において、**課題解決に向けた取り組み**を実施。

レビュー（安心・快適な給水の確保）

【主要施策4】より高度な水質管理技術の導入の促進

【今後の課題】産官学の連携による取組の推進

状況

- ・飲料水の水質リスク管理や健全な水循環の形成に資する浄水・管路技術等に関する研究開発に対して国庫補助を実施。
- ・（財）水道技術研究センターを中心としてe-Water II（安全でおいしい水を目指した高度な浄水処理技術の確立に関する研究）やNew Epoch（管路施設の機能診断・評価に関する研究）を産官学連携により推進中（いずれも平成17～19年度の3カ年計画）。

目標： 産官学連携による安心・快適な水の確保に資する技術開発のより一層の推進

今後の対応は？

- ・原水悪化や突発的水質事故、災害等に対して清浄な水を安定供給するための研究開発に対する国庫補助を今後とも実施。
- ・e-Water II 及びNew Epoch等の研究成果として策定される指針・ガイドライン等の活用により、需要者が求める安全でおいしい水を供給する効率的な浄水技術や老朽管路における水質劣化評価手法等の推進が図られ、水道事業体の取組の支援に資することを期待。

レビュー（安心・快適な給水の確保）

【主要施策4】より高度な水質管理技術の導入の促進

【今後の課題】産官学の連携による取組の推進

○厚生労働科学研究費補助（地域健康危機管理研究事業）平成19年度採択課題リスト（水安全対策関連）

採択課題名	研究実施機関
健全な水循環の形成に資する浄水・管路技術に関する研究	(財)水道技術研究センター
給水末端における水質および給水装置・用具機能の異常監視と管理に関する研究	(財)給水工事技術振興財団
残留塩素に依存しない水道の水質管理手法に関する研究	国立保健医療科学院
飲料水に係る健康危機の適正管理手法の開発に関する研究	国立保健医療科学院
水安全計画による貯水槽水道の管理水準の向上に関する研究	麻布大学大学院
飲料水の水質リスク管理に関する統合的研究	北海道大学大学院
水道水異臭被害を及ぼす原因物質の同定・評価および低減技術に関する研究	国立医薬品食品衛生研究所

出典：厚生労働省HP

○(財)水道技術研究センターにおける研究開発の取組

◆e-Water II プロジェクト(安全でおいしい水を目指した高度な浄水処理技術の確立に関する研究)

各種の原水条件に応じた最適浄水処理プロセスの選定指針の作成、おいしい水を目指した臭気原因物質等の検知と除去方法等の各種研究を実施することにより、需要者が求めている安全でおいしい水を供給する効率的な浄水技術を開発し水道事業体を支援することを目指す。

◆New Epochプロジェクト(管路施設の機能診断・評価に関する研究)

残留塩素の減少・消失等の水質変化を主な判断指標として管内面の劣化状況を診断・評価する研究を行い、この点を従来の評価手法に取り入れることにより、管路の総合的な機能診断技術を開発する。また、非開削等で管路の状況が把握できる診断技術や、管路施設の維持管理に必要な新たな技術の開発検討なども行う。

これらの研究により、各水道事業体が将来のことを考え、今の段階から管路施設の老朽化や更新の必要性を総合的に評価し、効率的・計画的に管路更新が進められるよう支援していくことを目標とする。

出典：(財)水道技術研究センターHPより抜粋